

たくみ 匠

の技を見せる

花火師の舞台が着々と整えられていく。今回、初めて昼玉を打ち上げた女花火師の下野瑠美さん(写真右下)。

指導を受けながら、少し緊張気味に点火。耳をつんざく爆音とともに、祭りの訪れを告げる昼玉が上空に打ち上がる。



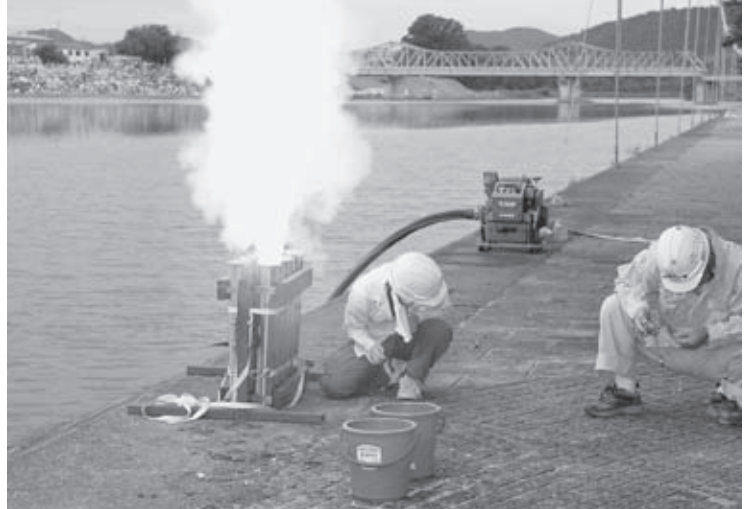
女花火師 下野瑠美さん
(手元の花火玉は5号玉)



封

火を じる

火の粉が落ちてくる打ち上げ現場周辺に、前もって水を打つ市消防団八木支団(写真上)。花火の燃えかすの消火や万一の事態に備えて待機する。



「ふるさと」の夏祭り」を創る

南丹市が合併して2年9カ月。園部、八木、日吉、美山、それぞれの先人によって築かれた歴史と伝統を重んじながら、地域に合った良さを未来へとつなげていこうとしています。

華やかな表舞台と、それを支える裏舞台、両方あってこそ一つの素晴らしい舞台が出来上がります。

南丹市やぎの花火大会には、62年分の人々の思いが込められ、年を重ねるごとに、厚みと重みを増しています。

今年、園部では、夜の花火大会を行わず、昼間のパレードと映画上映、そして新たな試みとしてジャズコンサートが行われました。市商工会では、「夏まつり」の内容について、幾度となく協議が重ねられました。その結果、人的・予算的にも断念された園部の花火大会を惜しむ声も多く聞かれます。

続けていくことの難しさ、新たに創り出すことの難しさ。未来へと託された南丹市の夏は、市民の皆さん一人一人の思いが集まって一つの形になっていきます。

「ふるさと」の夏祭り」。それは、あなたにとって、どんな存在でしょうか？そして、子どもたち